

# 竜の子奨学生

第20号  
Sep.2017

その夢は、きっと世界を変えていく  
The dream surely changes the world.



第33回交流会 第10回卒業式にて



第33回交流会  
BBQにて



ハリヤヤ (イスラム教の新年)

## CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第33回交流会レポート  
(第10回卒業式)
- ④ 第33回交流会レポート  
(第11回贈呈式)
- ⑨ 平成29年度新入生紹介
- ⑪ 竜の子近況報告
- ⑮ SPECIAL REPORT
- ⑯ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団

Tatsunoko Foundation

## 現在の夢



王 俊紅

上海理工大学外国語学院  
日本語学科 講師  
大阪国際交流協力員

時間が経つのは早いもので、竜の子財団を卒業してからあっという間に4年間が経ちました。竜の子財団の方々からのご支援をいただいたおかげで念願の大学教師になる夢を実現し、大学で楽しく充実した生活を過ごしています。人生は次々の夢を追いかける過程でしょうが、自分がこれから何を目標にすれば良いのか真剣に考えています。しかし新しい夢ができるまでそんなに時間がかかりませんでした。就職する前に日本で学んだ専門知識および体験したリアルな日本文化を学生に教えれば十分だと思っていましたが、今はその考えが変わりました。

きっかけは昨年日本で国際交流員として仕事をしましたこと。その1年間は主に日中文化交流イベントや政府間訪問など活動に携わりました。この仕事を通して感じたのは日本の国際化がかなり進んでいるため、日本語と日本文化だけを身につけるのでは足りないことです。いま日本では海外からの旅行者、外国人留学生、外国人会社員が年々増えているだけでなく、政府機関までも影響を受けています。国際交流員として働いた時、日本で生まれ育った日本人、アメリカで生まれ育った日本人、日本人より奈良文化に詳しいイギリス人、中国で生まれアメリカで育ったハーフ……、様々な文化背景を持っている同僚がいました。私たちは共通の日本語で仕事するのは当然ですが、お互いに仕事の仕方や日本社会の読み方はそれぞれ違うため、誤解や文化摩擦が生じることも時々ありました。その際に、問題をうまく解決する鍵は国際的な視野で物事を見ることです。「ここは日本だから、日本のルールに従うべき」と考える日本人同僚もいないです。私たちは協力しながらいろいろな文化の壁を超え、小さな職場を通して大きな世界をよりよく理解できました。

国際化が進んでいる今日、未来を担う若者たちは多元的な、国際的な視野を持たなければなりません。国際交流員の任期を終え、大学に戻った自分に現在の夢ができました。それは異文化コミュニケーションの専門分野で新たな理論を構築できる研究者になるうえで、研究成果を生かし、国際的な日本語学習者を育てることです。

### ご寄付いただいた皆さまへ

竜の子奨学生を代表して、寄付者の皆さまにお礼の言葉を申し上げます。

私たちはそれぞれの夢を抱いて日本に留学にきました。しかし、その夢の前には経済的や精神的な困難が立ちはだかっており、皆さまのご支援は、私たちにこれらの困難に立ち向かう力を与えてくれました。アルバイトに費やしていたかもしれない時間を本当にやりたかったことに使うことができ、経済的な困難による精神的ストレスからも解放されました。また、年に数回の交流会では、奨学生の仲間たちと留学生活の喜びや辛さを分かち合うことができました。同時に、日本の歴史や文化を学んだりして視野を広げることができました。

今後夢を追い続ける過程でどんな困難に遭遇しても、皆さまの温かいご支援と日本で同じく夢を追っている仲間たちを思い出し、くじけずに頑張っていきます。また、いつかは社会に貢献できる人間になり、皆さまから賜った御恩を返していきたいと思います。

(平成29年度竜の子奨学生 東京大学大学院 李雅頌)

# 第33回交流会レポート

## ● 第10回卒業式 ●

平成29年3月21日（火）、竜の子奨学生8名が竜の子財団を卒業する日を迎えました。卒業生は着物で入り、秋元理事長からの式辞をいただきました。卒業生代表の挨拶で金兌炫さんが寄付者および関係者の皆さまへ心より御礼を申し上げます。

### 式辞

#### 秋元 竜弥 理事長

本日は皆さま、足元の悪い中、また平日のお忙しい中足を運んでくださりましてありがとうございます。学生たちも喜んでおられます。



卒業式式辞を述べる  
秋元理事長

当財団は、発起以来12年経ちます。今回で卒業式が第11回目、そして贈呈式が第10回目で、のべ受け入れの学生が306名になります。卒業生の中にはすでに母国へ帰り、一線で活躍し始めておられます。当財団の目的は、経済的に困難な環境にありながらも、学力優秀な学生を応援し、この学生たちの夢をかなえて、卒業後は日本と母国との架け橋として社会に奉仕できる人となっていただくことです。特色として、年に3回から4回交流会を行うことです。交流会では私を含め竜の子財団関係者も参加します。ただ単に奨学金を授与するのではなく交流会を通じて奨学生達の苦労や母国の環境、将来の夢などを聞き、心と心の触れ合いを大事にしている財団です。今日ここまで来られたのも皆さまのおかげです。あらためて感謝いたします。

第11回の卒業生には当財団のキャッチフレーズ『その夢は、きっと世界を変えていく』という言葉を贈ります。卒業して時間が経ってしまうと、つい夢や志を忘れがちになりますが、そうした時は今までの交流会でお話したことやこのキャッチフレーズを思い出してください。

最後に竜の子奨学生の皆さんに言葉を贈ります。皆さんが幸せになり、夢を実現するには3つのことが必要だと思います。一つ目は「努力」をすることです。二つ目は「機会」をものにすることです。そして最後に「運」も必要です。これは非常に厳しい言葉です。皆さんは日ごろ努力をされていると思います。そして今回新しく竜の子奨学生になった皆さんは機会を与えられました。しかし運がないと人間は夢をかなえたり幸福感や達成感を得ることが出来ません。

ではこの「運」とは何でしょう。それは竜の子財団の志である、将来社会のあらゆる人のために役立つという奉仕の心を持つことが運を呼び込みます。是非、努力を重ね機会と運をつかみ、世界へ羽ばたいてください。

### 卒業生代表挨拶

#### 京都大学 金兌炫<sup>テヒョン</sup> さん

今日は雨の中お忙しい所、卒業生と新入生たちをお祝いしていただき誠にありがとうございます。

今回の卒業生で、本日この卒業式に参加できたのは8名中6人で

した。卒業生の中には、自分の夢を実現するために邁進している人もいれば、また一方で少し苦しんでいる人や、現実の厳しさを実感し、夢の方向性を変えた人もいます。それぞれ状況は異なりますが、今日ともに竜の子財団を卒業することとなりました。私にとっての竜の子財団は奨学金という金銭的なサポートのみならず、交流会を通じて様々なストレスや苦痛から開放され楽しい時間を提供してくれたありがたい財団でした。無理やりストレス環境から引っ張り出してもらって、日本の文化を堪能したり、知らない日本の歴史を知ったりすることで気分転換になり、私にとっての大切な思い出となりました。本当に感謝の気持ちで一杯です。この気持ちは竜の子財団を卒業した先輩たちや私たち卒業生、また在籍中の奨学生たちみんな同じだと思います。

今ここに立つ卒業生たちは竜の子財団に入る際に語った夢に近づくための一歩を踏み出した人や、まだ一歩後のところで頑張っている人、現実という厳しさを実感し夢の方向性を変えた人、様々な形と様々な思いをもって本日の卒業を迎えました。卒業生を代表して在学中の皆、もしくはこれから卒業して自分の夢に一歩踏み出すみんなのために一言、自分の経験の話をしたいと思います。私は精神的なストレスとか様々なことがあって誰にも言えない時期がありました。そのとき一人で悩んで解決しようとし



卒業生代表挨拶  
金兌炫さん

ましたがやはり苦痛でした。その時、自分が感じたことはそういう時こそ人に頼るし、誰かにそういう話を聞いてもらいたいし、誰でもいいので自分に客観的なアドバイスをして欲しかったのです。竜の子財団の関係者の方々はいつでも相談に乗ってくださるので、私は運が良かったです。皆さんもそのような時は相談なさってはいかがでしょうか。竜の子財団には様々な夢を持っている人たちが集まっているので、周りの色んな人と話をしてみてください。そうすることによって自分が今の逆境を乗り越え

られるか、今の方向性が自分に向いているかどうか、自分の考えが甘いかなど様々なことを考える機会になります。

最後にSNSやスマートホンなどの発達に伴い、他人に関心が少なくなり他人への配慮できる人が少なくなっています。竜の子財団の在学生の皆さんは、本日参加していただいている方々や寄付者の方々のご配慮を受けているので、逆に配慮をできる人になって欲しいです。

この場にいる皆さまの幸運とご多幸をお祈りします。



卒業生より吉田様へ花束贈呈



卒業生より秋元理事長へ記念品贈呈

## ● 第11回贈呈式 ●

同日、東京・六本木にて第11回贈呈式が開催されました。第11期は8名の留学生たちが、新たに竜の子奨学生として迎え入れられました。秋元理事長から温かいお祝いの言葉をいただきました。グエン ヴ タオ グエンさんが新入奨学生を代表して感謝の気持ちとこれからの決意について話しました。

### 選考結果報告

#### 小谷 誠 選考委員長

平成29年度の新規の奨学生は8名でした。在学生からは、再度申請が9名おり、選考いたしました。

その9名の方は各大学からその方を推薦していただき、新規の8名については各大学から2名ずつ推薦され、選考委員会を開き、当財団の趣旨に合っているか、成績が良いか、経済的にどのような状況かなど、様々なことを慎重に皆で審議して、この8名の方を採用しました。(本誌 p.9~10に載っている) この8名の方は本当に優秀な方ばかりです。本当におめでとうございます。

私は、脳科学が専門なので、少し話をさせていただきます



贈呈式選考結果を報告する  
小谷誠選考委員長

す。先ほど秋元理事長が将来大きな夢を持って頑張りなさいと仰っていました。実は、大きな夢を持って頑張ると脳の中で最も大切な前頭前野というこの場所が非常に発達します。そうすると、皆さんの中には東大とか京大とか多くいらっしゃいますが、そのような大学に受かるためには、実は前頭前野ではなくて、全般的に脳に記憶して溜めていかなければならないのです。ですから試験には強いのです。ところが社会に出たらそうとは限らないのです。この時にはどういう風に判断するのかとか、どういう決断をするか、それを決めるのが前頭前野という脳なのです。それを鍛える方法として、夢を持つことで鍛えられるのです。

前頭前野は様々な働きがあり、例えば天才というのは、前頭前野の脳細胞の中のシナプスにちょっと刺激を与えるだけでどんどん活性化していく脳があります。そういう人が天才

なんです。

学問や勉強をしていなくて、知識もないけれど、ちゃんと前頭前野を鍛えてて、ここでどうするかわかっている人が本当に賢い人で、そういう人は社会に出て偉くなります。よって東大生、京大生もいるけども、そこも鍛えるためには将来大きな夢を持つと良いでしょう。

### 新入生代表挨拶

#### 立命館アジア太平洋大学

#### グエン ヴ タオ グエン (ベトナム)

私はベトナムの南部のブンタウと呼ばれる観光地からまいりました。立命館アジア太平洋大学 (APU)、学部3年のグエン ヴ タオ グエンと申します。この度は竜の子財団の奨学生として採用していただき、またここでお話する機会を与えていただき、本当にありがとうございます。

今から2年半前、18歳の私は一人で飛行機に乗って、日本の別府へ留学に来ました。私は家族のなかで初めて海外留学の道を選んだので、誰からもサポートやアドバイス



新入生を代表してスピーチするグエンさん

もいただけませんでした。この2年半別府で勉強や課外活動しながらアルバイトをして大変でした。

しかし、今年から、竜の子財団の奨学生として採用されて、私は以前より夢を追いかけることに専念できるようになりました。そして現在、私はAPUで観光学について勉強し、観光マーケティング、観光ブランディングについて研究をしています。観光は人の見える世界を変え、そして文化の壁を取り除き、異文化理解の促進をすることができると信じています。よって、ベトナムの観光地や日本の観光地さらに世界中の観光地の魅力をもっとうまく皆さまに紹介できるようになることが私の夢です。

竜の子奨学生の皆さんも、それぞれの夢を持っていると思います。私たちは違う夢、違う国籍、違う専門分野を持っていますが、竜の子財団のおかげで今日ここに集まることができました。これからも、竜の子財団の活動や交流会を通して貴重な時間を過ごしたいです。そして竜の子財団のサポートをしっかりと活かし、この出会いをもっと大切に、より良い自分になって、必ず夢を実現するように頑張ります。

(担当：平成29年度竜の子奨学生 東京工業大学 朴 胤植)

## ● 祝 賀 会 ●

贈呈式に続き、祝賀会が開催されました。ご来賓の吉田様及び太田様からスピーチをいただいた後、新入生、在籍生、卒業生とも交流を深めました。さらに、ご来賓より和装についてのご教授を頂戴した後、伊礼様から示唆に富むスピーチをいただき祝賀会が終了しました。

### 来賓挨拶兼乾杯

#### 日本和装ホールディングス株式会社

#### 代表取締役社長 吉田 重久様

卒業生の皆さま、本日は卒業おめでとうございます。そして竜の子財団関係者の皆さま、皆さまがこの財団と奨学生達をサポートしてくれるのは、とても素晴らしいことだと思います。

私と秋元理事長は、8年ほどのお付き合いがあります。この竜の子財団の話聞いた時、私は素晴らしいことだと心から思いました。8年経った今、私には子供が4人います。一番上が24歳で、一番下が18歳なのですが、二番目から下は全員外国にいます。次女はロンドンに、長男はアメリカに、そして一番下はカナダにいます。2年前にお話させていただいた時に申し上げたと思うのですが、みんな高



吉田 重久様

校生の時から外国に行ってしまうのです。なぜなのかは知りませんが、みんな行きたがるので行かせてるのですが、この奨学財団のようなサポートには恵まれませんでした。なので、この奨学財団は本当に素晴らしいことだと思います。先程、卒業生の方が精神的に悩んでいる時、竜の子財団の仲間が支えてくれたと言いました。私も自分の子供が精神的に悩んでいると思う時があります。そういう時にこのような仲間がいて、他にも理事長はじめいろんな人達がいて相談ができるのは、とても素晴らしいことだと思います。こういう「輪」を、ぜひ世界中に広げていってほしいです。

恩は返すものではなく、贈るものだとされています。8年前、私が初めて秋元理事長と出会った時、実は彼の会社が一番苦しかった時期でした。しかし、彼はそれを見事に乗り越えました。そしてその苦しい時にも、この財団だ

けは続けてきました。彼は価値のある試練を受けているのです。皆さんにはぜひその恩をまた他人に贈って欲しい、そして秋元理事長のことを忘れないで欲しいのです。世の中、社会貢献とか色々言っていますが、実際には中々できないのです。しかし、秋元理事長はそれをやり遂げました。そして今日もまた、4年間の約束をしました。それは素晴らしいことだと思います。

「秋元理事長、あなたは本当にすごい人です！」

今日は卒業生の皆さんに着物を着てもらいました。男性の方々を着ているのは「紋付」という、日本の最高礼装です。タキシードや燕尾服よりもさらに上級の礼装です。紋付の背中についているのは、家々の紋です。この紋は、お墓にも書いてあります。日本人は、これを代々受け継いでいきます。女性は若い方なので、「振袖」を着てもらいました。これらの着物は日本人が成人した時に着る服装です。そして触ってみてください。これは日本で最高の肌触りの生地です。今日はこれらを着て、日本の文化を楽しんでもらいたいです。

#### 来賓挨拶

##### OAG税理士法人

##### 代表社員 税理士 太田 孝昭様

竜の子財団とは、当初から関わっていました。先程、秋元理事長を含めた様々な方が、皆さんに言葉を贈りました。皆さんはついで



太田 孝昭様

ているとか、この奨学財団に選ばれた、年に3～4回のこのような交流会を行ったり、そのように皆さんは本当についているのだと思います。

日本には国歌がありますが、みんな中々歌いません。そして「第二国歌」と呼ばれている『故郷』という歌があります。その三番の歌詞に「志を果たして、いつの日にか帰らん。山は青き故郷。水は清き故郷。」とあります。皆さん、悲しいときや辛いことがあった時は、どうか故郷とそこに家族を思い出してください。そして、そこに自分は凱旋するんだという気持ちを抱けば、多少の挫折には耐えられるのです。志というのは、そういうものなのです。皆さんに希望を与えてくれるのです。秋元理事長はかつての辛い時に、この竜の子財団が自分の希望だと言っていました。この竜の子財団がなければ、自分はあそこで投げ出していたかもしれないと言っていました。この竜の子財団には、秋元理事長の志が宿っていたのです。この財団を潰してはいけないと思い、一年で苦境を乗り越えたのです。もしかして、その時にこの財団は秋元理事長に多大な恩を返したのではないのでしょうか。このように、志は必ず

皆さんに何かを返します。これから辛い時も悲しい時も色々あると思うのですが、ぜひ故郷の家族などを思い出して、いつか志を果たしてそこへ帰るんだと思ってください。皆さんがいつか故郷へ凱旋することは秋元理事長の望みだと思うので、ぜひ頑張ってください。

#### 来賓挨拶

##### 日本和装ホールディングス株式会社

##### 取締役 道面 義雄様

日本人の家紋というと「花」の印象が多いのですが、そのルーツを皆さんはご存知でしょうか？

時代劇などで將軍さまが担がれて街に出る時、平民は道の側で正座をしています。その時の乗り物に描いてある紋で誰が乗っているか分かることから、日本の家紋というものができました。今日は卒業生の皆さんに黒紋付という日本の男性の最高礼装を着てもらいました。これを初めて作った時に自分自身の家紋を知りました。織田信長と同じ「五方木瓜」の家紋です。当社の社員は皆、名刺に自分自身の家紋をつけています。これは、会社の看板と先祖の家紋両方のプライドを持って仕事をしたいという思いが込められています。これらの日本の伝統文化を次の世代の方々にも引き継いでいただけるよう精進していきます。



道面 義雄様

#### 来賓挨拶

##### 日本和装ホールディングス株式会社

##### 総務局 徳住 有香様

今日は女性の方に振袖をお召しいただきましたけれども、あれは未婚の女性の最高礼装と言われるものです。女性も黒紋付を当社では最高礼装としておりまして、私も紋が一对で、きらびやかな帯をしめて、黒紋付姿で、お正月を祝わせていただきましたけれども、未婚の女性の場合は、振袖でも大丈夫ということで、本日お召しいただきました。今日は、本当に素晴らしい振袖をお召しいただきまして、ありがとうございます。これを20歳の時に、日本では着るんですが、結婚すると、ここを繕って袖を短くします。それを袖を留めると言い、略して留袖です。ですが、この長い袖で、男性の気を引くだけでも申しませうか。そういう効果もあるので、結婚すると、袖を切るんです。



徳住 有香様

切ると、一生着れるものになりますが、この切った部分を、一説によりますと、ご主人の棺桶にいれて、見送るという考え方もあるそうです。いろいろな話がありますが、

本当の意味では、やっぱり未婚の女性の最高礼装です。結婚すると、黒紋付で、紋の数が多ければ多いほど、格式が高いと言われます。先ほど卒業生の方からいくつまで入れたらいいですかと聞かれました。5個が最高です。こういうこともちょっと覚えて帰ってもらい、奨学生の皆さんは、「日本にはこういうのがあった」と覚えていただけたらと思います。決して、それは私たちが、良い訳でも悪い訳でもなく、その国の文化です。文化というのは、言い伝えられるのが文化だと思います。皆さんの国でも、そういうことがたくさんあると思います。ただ、この国の文化にちょっと親しむと言う意味で、お話ししました。



振袖の紹介

さい。勉強以外でも、日本のあらゆるジャンルを吸収するつもりで頑張っていただけだと思います。在学生の皆さんも、もう少しで、卒業生と同様に、これから大きく羽ばたくと思うので、同じ志を持ってください。



在籍生の皆さんと

## 閉会の挨拶

伊礼総合法律事務所  
弁護士 伊礼 勇吉様



伊礼 勇吉様

竜の子財団設立以来、監事をしております。秋元理事長は、大きな志を持っていて、何が何でも継続して、成功させて、世界との大きな繋がりにしたいんだということを言っておりました。会社が倒産するのではないかという状態もありましたけど、それでもいいという程の志で乗り越えました。竜の子財団の奨学生の皆さんは全く心配無用なので、安心して奨学金を受け取ってください。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。ここで学んだことは、きっと皆さんの将来のために役に立ちます。そして、日本と皆さんの母国との、大きな架け橋になっていたきたいと思います。2、3年前に竜の子財団の会誌の一期一会に書かせていただきましたが、万国津梁という言葉があります。私は、沖縄出身なので、沖縄の、琉球国の方針として、万国全ての国と国との懸け橋になって、万国の文化との、交流を支援して、平和を築くというのが万国津梁という言葉です。竜の子財団と同じですね。竜の子財団の精神とはまさにそういうことで、非常に素晴らしいなと常々感じております。卒業生の皆さんは、これから世界に大きく羽ばたいていかれると思います。この精神を胸に、日本と母国との懸け橋になっていただきたいです。新入生の皆さんも、日本の良いところを沢山学んでいただいて、自分の国に、大きく貢献してくれるよう頑張ってください。

## 【ご紹介】

毎月奨学生の誕生日に株式会社Uca様の花を贈っています。



(担当：平成29年度竜の子奨学生 東京大学大学院 李 雅頌  
平成29年度竜の子奨学生 明治大学 唐 天利)

● B B Q ●

第10回卒業式・第11回贈呈式の翌日、3月22日は恵まれた晴れでした。卒業生、在籍生たちは待ち合わせ場所の新橋から、お台場海浜公園に向かって出発しました。今日はバーベキューの日でした。

笑い声は、竜の子のみんなのいる車両から、風と共に、沿線のあちこちに漂っていったでしょう。お台場に近づきながら、海はだんだん広くなり、波がキラキラと輝き、眩しかったです。目的地に着くと、バーベキューの用具や食材などはすでに用意されていました。みんなは各グループに分けられ、楽しいバーベキューがスタートしました。

肉を焼く人、海産物を焼く人、野菜を焼く人、出来上がった料理を分ける人…各自の担当は特に分配していなかったが、みんなはグループの一員として、自主的に動いて、バーベキューを楽しんでいました。するといつの間にか、みんなの距離が縮まってきたと感じました。

最初のにぎやかさはだんだんと落ちついてきました。なぜなら、みんな目の前の食べ物に夢中になっていたからでした。たくさんにある肉を見て、幸せだと感じました。普段、留学生はこんなに贅沢な食事をする機会はありません。大好きなホタテとアワビも久しぶりに食べました。

留学生の食事は、いつも各国の料理をアレンジした料理が出てくるでしょう。シャリアズさんが作ってくれた海鮮肉焼きそばはすごく美味しかったです。自分のグループは焼肉が出来上がるまでに、箸と皿を持ち、他のグループ

のところに行き、ほかの人が焼いた肉を食べてから戻り、短時間で各国料理を食べた感じがしました。

美味しいものを食べながら友達と話しをするのは何よりだと思います。少し人見知りで、最初は、知ったばかりの同期と先輩とどのように接したほうがいいのか心配しました。でも、その心配は余計なものだと分かりました。みんなと、一緒に美味しい肉を焼き、一緒に焼肉が出来上がるまで待ち、会話をしながら、お互いの趣味や好みも知り、人見知りの壁は破られました。そして、お互いに理解し合い、親しくなりました。

今もその日の青空、東京湾の潮風、咲き始めた花の鮮やかさははっきり憶えています。次の交流会でみんなとの再会を楽しみにしています。



油焼きそばと語り合う二人



エビを切るシャリアズさん



海鮮肉焼きそば



堆塚理事からハリンさんに卒業記念品贈呈



BBQを楽しんでる



全員で記念撮影

(担当：平成29年度竜の子奨学生 北海道大学 胡 政飛)

## 平成29年度新入生紹介 「5年後の自分」

物事を憶えられる時から、将来、隣のその子と結婚したい、医者になりたいなどの夢を見続けているでしょう。大人になり、現実と夢のギャップに悩んだり、苦しんだりしつつ、誰も夢を描くことを諦めないでしょう。今ではないけど、いつか夢が叶えると信じているからこそです。頑張り続けている新入生たちは、今の自分を支えている、5年後、10年後、もしくは一生の夢を時々描くでしょう。さあ、みんなの5年後の夢を聞きましょう。



コ セイヒ  
胡 政飛

(中国出身)

北海道大学

文学研究科 人間システム科学専攻

博士2年

5年後、計画通りに行けば、私は国の南のほうのある都市のある大学で教師の仕事をやりながら、今の研究の続きも行っているでしょう？あるいは、日本かヨーロッパの研究所では、一人前の研究者になるために自分を鍛えているでしょう？計画通りに行くかどうかにもかかわらず、生涯に渡って今やっていることをやり続けたい気持ちや信念は変わりません。

いつも何らかの理由で計画は変わっています。しかし、いくら計画が変わっても、変わらないのは今のことです。私は、今のことを楽しんでいます。今を楽しんでいることは、過去の今、頑張っていたからです。5年後の今のために、今は全力で頑張らないといけません。



パク サンウォン  
朴 相源

(韓国出身)

東京工業大学

物質理工学院

材料系専攻 博士1年

私は材料科学が好きで、材料科学と関わる仕事をするために博士課程に進学しました。古くから材料科学の歴史は人類の歴史とも言えるほど、文明の発達に膨大な影響を及ぼしてきました。私も人類の繁栄に一役買いたく思い、材料科学の研究に励んでいるところです。日本で大学と修士課程を終えて、兵役の関係で韓国に帰って研究所で働くことができ、幸いに国際的な感覚を自然的に学ぶことができました。また今はアメリカの先生と共同研究をしており、その幅を広げようとしています。5年後もその後も材料研究を積み重ね、いつかは世の中を豊かにする貴重な役割をしたいと思っています。



タン インチャン

(マレーシア出身)

筑波大学

社会・国際学群

社会学類 学部2年

5年後の自分と聞かれたら、大学院を卒業します。その後、社会人の生活を始めます。毎日朝6時に起きたり、何時間も滞滞に詰まったりしながらも、働きます。でも現実に言えば、私はシンクタンクで研究している姿が見えます。この場所で、私はいろいろな社会問題の解決方法を探せられる可能性があると思っています。また、このような貴重な機会は他の場では体験できません。



トウ テンリ  
唐 天利

(中国出身)

明治大学

農学研究科

農学専攻 修士2年

5年後の私は、現在内定をいただいている会社で、日本だけではなく、世界各地の美味しいこだわり野菜と果物を消費者に届ける仕事に取り組んでいるだろう。5年後の私は社会人4年目なので、上司から信頼されて、後輩にとって頼れる存在になりたいです。将来は、日本、中国だけではなく、いろいろな国の人たちと関わる仕事をしたいと考えているので、そのために英語は必須となります。現在は英語の学習もしており、専門性を高めるためにも、研究に全力で取り組んでいます。また、5年後の私は結婚し、子供もいるかもしれません。仕事から得る満足感だけではなく、幸せな家族も作りたいたいです。



リ ヤソン  
**李 雅頌**  
(中国出身)  
東京大学  
農学生命科学研究科  
応用動物科学専攻 修士2年

私は現在、株式会社グレーストーンという食品企業の内定を頂いており、来年の4月に企画開発職として入社することになっております。

私は「物を作る」ことが大好きです。自分のアイデアを形にするために試行錯誤を繰り返す過程を楽しんでいます。また、お菓子が好きで、素敵なお菓子を作りたいと思い、この企業に就職することにしました。5年後には仕事の内容を一通り身につけ、自分の担当のブランドを持っていると思います。入社4、5年で大ヒット商品を出すのは難しいかもしれませんが、いくつかの新商品の企画に携わり、お客さまに「おいしい」「楽しい」「きれい」と思われる新商品を出せたら幸せだと思います。また、2020年の東京オリンピックの際に、外国人社員として外国人観光客向けの商品開発で力になれたらいいなと思っております。



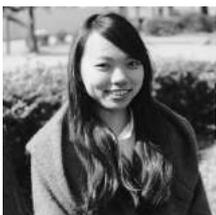
リョウ キョウエキ  
**梁 晓奔**  
(中国出身)  
京都大学  
文学研究科 歴史文化学専攻  
博士3年

5年後の私は、何をしているのでしょうか。博士課程を卒業して、大学の教職員になったと言ったところでしょうか。5年前を振り返ると、それはちょうど学部を卒業して来日の準備をしていた時期でした。はっきりした記憶はないけれど、その時の私は、恐らく不可知の未来に対する不安と探求心に満ちていたはずでした。願わくは、5年後にまた過去を振り返る機会があれば、胸を張ってこの5年間の成長を自慢気に語るができることを祈ります。さて、5年後の自分は、自由に好きな研究ができ、かつ社会に何か貢献できれば良いが、それを目標にしてこれからも精一杯努力することになります。



パク ユンシク  
**朴 胤植**  
(韓国出身)  
東京工業大学  
理工学研究科  
化学工学専攻 博士3年

5年以内に国家の政府研究機関の一員として技術開発をリードする研究員になることを目標としています。そのためにより様々な分野での研究経験が必要なので、博士学位取得後には、ポスドク過程を経て深みのある研究経験を積んで行きたいと考えています。また、若い研究者たちが、自分たちの研究能力を発展させる環境構築に寄与したいです。日本で構築したネットワークをもとに、日韓の学生との間の研究交流の場も設けることで、学生の研究能力を向上させ、より大きな夢を持つことができるように手助けすることを考えています。現在行っている研究や、行動の一つ一つが後進にとってのマイルストーンになるという気概を持って、自分の立場に相応しい最善をつくそうと心掛けています。



**グエン ヴ タオ グエン**  
(ベトナム出身)  
立命館アジア太平洋大学  
アジア太平洋学部  
学部3年

5年後、私は26歳になり、社会人経験は4年になります。その時には、実力をつけたイベント運営者になりたいです。その理由は、イベントツーリズム事業を通じて、日本からはじめアジア諸国の未知観光スポットの魅力により多くの人にアピールし、観光地域のブランド作りに貢献したいからです。そのために、現在では、大学のゼミやイベント運営のインターンシップでイベントツーリズムに関する知識を身に付けています。大学卒業の後、日本のイベント会社で就職を始め、様々なイベント・祭りの運営サポートの仕事から経験を積んだ上で、リーダーシップを持ち自分のイベントプロジェクトの企画・開催などで挑戦し、夢に向かって努力していきたいと考えています。

## 竜の子近況報告

### 「夏が終わる前に博論を完成したいです！」



村上春樹国際シンポで香港版『ノルウェイの森』翻訳者葉惠先生と一緒に(本人右)

ケン エ 慧 (中国)

東京大学 人文社会系研究科  
アジア文化研究専攻 博士3年

私は博論のまとめ段階に入り、夏が終わる前に初稿を完成させる予定です。7月初旬に京都で開催された村上春樹国際シンポジウムで発表し、来場の先生から多くのアドバイスをいただき、それを参考に博論を進める予定です。なんとか暗闇の中で光が見えてきたような気がします。それと同時に就活も並行でやっており、充実した日々を送っています。去年からハーフマラソンをはじめ、今年の3月は三浦半島マラソンに出場しました。良い成績は取れなかったですが、もっと練習して10月の軽井沢ハーフマラソンに出る予定です。走ることで論文を書くことは共通のことが多いと思います。走れば走るほど、書けば書くほど、体力は尽きますが、頭はどんどんすっきりしてもっと冷静に物事を考えることができます。終点に近ければ近いほど体的に辛いですが、精神的に楽しいです。今、その時期にいると思います。あともう少し！頑張ります！よろしくお願いします。



ひたち海浜公園にて

イ サンギョ 李 常揆 (韓国)

早稲田大学 政治経済学部  
経済学科 学部4年

### 「課外活動で忙しい日々です。」

私は最近、様々な課外活動をやっています！まず、去年の早稲田大学韓国人学生会の会長から昇進しまして、在日韓国留学生連合会の顧問になりました。学生会はもう卒業しようと思ったのですが、去年の活動で高評価をもらい、顧問役になりました。そして、韓国サムスングループの大学生リポーター、Young Samsungのグローバルリポーターとして活動しています！1ヵ月に2回ぐらい日本でのサムスの活動を紹介したり、日本の大学生のトレンドを韓国に伝える記事を書いています。uoungsamsung.com/main.doに私の記事が掲載されますので、韓国語ばかりですがどうぞ、よろしくお願いします！最後に、個人的には11月の大学院入試に向け、様々な方向から準備を進めております！いい結果をお伝えできるように頑張っていますので、ぜひ応援してください！



2016年筑波大学模擬国連のチーム (本人右手前)

タン インチャン (マレーシア)

筑波大学 社会・国際学群 社会学類  
学部2年

### 「今学期の学生生活」

皆さま久しぶりです！今学期はすごく忙しく、ずっとバタバタしてました。授業やゼミの上に筑波大学の模擬国連でも結構やることができました。でも皆の努力のおかげで11月にアメリカでの模擬国連に参加することになりました。最近は何部もやらせてもらって、新入生の練習などの準備も大変でした。もちろん結局全部楽しくて、やって良かったと思いますが、時間管理がなかなか難しいです。



発表後交流会での様子 (本人右上)

パク ユンシク 朴 胤植 (韓国)

東京工業大学 理工学研究科 化学工学専攻  
博士3年

### 「日韓研究交流セミナー発表」

毎年開催される日韓学生の研究交流セミナーに、今年も参加しました。「プラズマ化学と化学工学」をテーマにした今回のセミナーは、東京工業大学で行われました。学生達との間の研究交流の場として、研究交流だけでなく、両国の学生と様々な会話をすることができる良い機会でした。個人的には私の研究発表能力も向上させるような良い経験でした。また延いては今後の夢がもっと明確になるような良いきっかけになりました。これからもがんばります！



大学院での勉強会の様子(本人左手前)

ソウ キシュン  
曾 毅春 (中国)

一橋大学 商学部 学部4年

## 「大学院での講義を履修し始めました」

皆さんお久しぶりです。一橋大学4年の曾です。まだ4年生ですが、運が良く本校の「学部・研究科5年一貫プログラム」に選抜されたため、今学期から大学院の講義を履修できる機会をいただきました。大学院での生活を一言で言うと、とても難しくて忙しいです。その上、学部部分での卒業論文に関する研究及びサマーインターンの選考など、毎日山ほどのことに追われて、体力的に大変ですが、精神的にはとても満足しています。大学院の卒業まであと1年半残っていますので、未練がないよう、全力で頑張りたいと思います。



第62回日本透析医学会  
学術集会・総会参加  
(本人は左)

## チャンポンパックディ インオン (タイ出身)

東海大学 工学部  
医用生体工学部 学部4年

## 「修士課程の進路に決めました」

今年の2月の中旬から3月の中旬まで、東海大学医学部付属病院で臨床実習を受けました。実際に重症な病気がかかっている患者さんにかかわって医療機器などを操作したりしてたくさん知識が得られました。それで、苦しんでいる患者さんを助けたいという気持ちがより強くなり、東海大学の修士課程に進むことに決めました。現在、修士課程の推薦試験結果待ち中です。最近、卒業ゼミナールの発表をして、研究テーマを決めました。あと半年で卒業しますが、これからいくつかの資格試験を受験し、受験の勉強も卒業研究も一生懸命頑張りたいと思います。



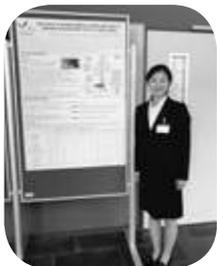
渡月橋にて

リョウ ギョウエキ  
梁 晓奔 (中国)

京都大学 文学研究科  
歴史文化学専攻 博士3年

## 「近況色々」

6月に嵐山に引越しました。遠くに嵐山が見える、昭和風の一軒家です。2階建てでうちのネコが大喜びらしいです。毎日階段で往復ダッシュします。(私事多忙に怠慢な性格を加えて部屋の片付けがなかなか終わらないが)。来年の博論提出を目指して現在は投稿論文の準備や学会報告などに取り込んでいます。1本目投稿論文の審査意見いただき、修正して再投稿して今は審査結果待ちです。その間に2本目と3本目の投稿準備をしています。



国際アスパラガスシン  
ポジウム(ドイツ)にて

トウ テンリ  
唐 天利 (中国)

明治大学 農学研究科 農学専攻  
修士2年

## 「海外研究プログラムの準備を進んでいます」

大学院の海外研究プログラムを申請して、9月の国際アスパラガスシンポジウムに参加できるようになりました。そして、国際アスパラガスシンポジウムが終わったあと、指導教員と共に、Lim group本社(オランダ)に招待されました。Lim group社は、世界最大のアスパラガスの育苗会社メーカーであり、世界中のおもなアスパラガスの栽培地域に普及しているグリーンおよびホワイトアスパラガスを育成しています。せっかくの機会ですので、そのような貴重な機会を利用して、Lim group社を訪問し、世界のアスパラガス生産の動きから、私のアスパラガス研究の方向性を再検討すると共に、世界のアスパラガスの生産主要国の一つであるオランダのマーケットにおけるアスパラガスの位置付けを見てみたいと思います。初めてヨーロッパに行きますので、すごく楽しみにしています。



2017年度の大学同窓会、松本にて（本人2列目右端）

パク サンウォン  
**朴 相源**（韓国）

東京工業大学 物質理工学院 材料系専攻  
博士1年

## 「論文執筆と5年ぶりの大学同窓会」

第一著者として2本目の論文をやっと完成し、科学誌に投稿しました。1本を書いたから3年ぶりの執筆で苦労はしましたが、色々改めて学べる事ができて楽しかったです。これから審査が行われるのですが、また成長できると期待しています。また、5月末に信州大学の同窓会があって松本に行ってきました。久々に会っても、つい最近会ったような感じでふざけ合ったり、はしゃいでたりしてとても楽しかったです。また、色々な分野で活躍している友達の話聞いて、自分もより立派な一人前にならなきゃと思いました。



去年の国連グローバルゼミナールのメンバーの就職祝いです（本人2列目右から2番目）

**マハウォンウィリヤ・スタシニー**（タイ）

東海大学 教養学部 国際学科  
学部3年

## 「3年生になりました！」

時間が流れている川のように、気づいたら3年生になりました。卒業まで1年半残っていますので、進路のこと色々考えています。最近は専門研究を頑張りながら、通訳にも力を入れています。今まで何度もアルバイトで日本語からタイ語に訳したことがありますが、英語から日本語に訳したことがなかったので授業を受けてみました。秋学期には実際に講演会で通訳する予定ですので、一生懸命頑張っていきたいと思っています。



ベトナムウィークの時友達と一緒に撮った写真（本人左）

**グエン ヴ タオ グエン**（ベトナム）

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部  
アジア太平洋学科 学部3年

## 「ゼミ研究と就活準備で頑張っています」

私はこのセメスターにゼミで忙しく過ごしています。今年末に大学で開催されるカンファレンスで発表するため、初めてアカデミックな研究を行ってみました。そのテーマはAPUのマルチカルチュラル・ウィークという様々な国・地域の言語や文化を週替わりで紹介するイベントにおけるリスク管理についてです。この研究の経験を通して、自分の卒論を書くことに役立つ枠組みと実験方法を多く学べました。そして、私の就活まであと半年だけ残っているので、色々準備もしなければいけません。そのため、学内のイベントや課題活動などで楽しむことはもうだんだんできなくなって少し悲しいです。しかし、就職できるために、これからも頑張っていきます。



毎日私と遊んでいる「もにまるず」の羊ちゃんと私です

コ セイヒ  
**胡 政飛**（中国）

北海道大学 文学研究科  
人間システム科学専攻 博士2年

## 「研究室は涼しい」

ようやく論文の執筆が終わりましたが、これから長い添削の道に歩まなければなりません。論文を発表するのが簡単ではないことはやっと実感しました。投稿できるまでにあと少しです。新しい実験の準備も一段落しました。次の山はプログラミングです。全く経験のない私にとっては、難しいは難しいですけど、意外に面白いなと思っています。世間には甘いものがないので、自分の力で向き合わない！ストレス解消には一番ぴったりのものが見つかりました。「もにまるず」というものです。どんなふうにいじっても、もとの形に戻れるから、物を壊さなくても溜まったストレスが解消できることは何よりです。研究に没頭している皆さんも、たまに私と一緒にストレスを解消してみてください。



学会ポスター発表

ムン キルジュ  
**文 吉周** (韓国・全州出身)  
 九州大学 工学府研究科  
 機械工学専攻 博士2年

### 「研究・学会 忙しい生活」

博士課程卒業までちょうど1年になりました。卒業のためには研究成果が必要となるため、最近はや遅くまで研究を一生懸命頑張っています。特に7月からは国内外学会が開かれるため学会の準備も並行に行っています。年度末までには卒業条件を満たして、計画通り卒業ができるように頑張ってみます。暑さが厳しくなっていますが、皆さまのご健康をお祈りいたします。



息子と一緒に撮ります

ホウ メイ  
**方 梅**  
 (中国・河北省出身)  
 九州大学 医学系研究科  
 医学専攻 博士4年

### 「卒論に向けて頑張っています」

福岡は今年の梅雨の時期がちょっと遅れています。私は最近論文頑張っております。今年7月まで、私の実験が大体完了しました。高いインパクトファクター学術雑誌への掲載に向けて、いま卒論の原稿をまとめております。私の主人が今年5月、中国河北医科大学付属病院で就職に成功しました。来年入職予定です。主人の卒論が最近「Scientific Reports」の雑誌編集者から大切なアドバイスをもらいました。最終掲載に向けて、いま追加実験をやっています。これから寸刻もおろそかにせず勉強します。



東京大学附属病院実習室内で日本準ミス秋山さんと一緒に(本人左)

ソン ビンカ  
**孫 敏華** (中国・天津市出身)  
 東京大学卒業

### 「楽しく病院で実習をしています」

今年の2月から東京大学の附属病院で実習を開始しました。実習は大変大切な臨床経験であり、今回頂戴した貴重な機会に、東京大学各診療科先生のご指導を仰ぎながら、各科の臨床知識を深めていくところです。東京大学では難しい症例、謎な症例が多いので、毎日収穫が大きく、充実で、楽しいです。日本の医師国家予備試験1部、2部、3部を受ける時、想像できないほど大変な時期でした。竜の子財団のご支援に深い感謝を申し上げます！これからも責任を持って、日々精進してまいりたいと存じます。



日本中国友好協会の太田副理事長と協力関係を築くためのミーティングを行った様子(本人左)

シン チュウカ  
**申 中華** (中国・河北省出身)  
 東京大学大学院卒業

### 「企業活動を通じて日中文化の交流を深めています」

2015年3月竜の子として卒業した東京大学の申中華です。私は今東京池袋にあるコンサル会社(前身は旅行会社)に勤めています。具体的には日中の企業家や文化人の交流活動を初期段階から斡旋し、交流内容についてコンサルを行い、旅程の作成まで前端的にサポートすることです。日々チャレンジが多い仕事ですが、努力と誠意を重ねて交流案件を達成させる度に、非常にやり甲斐を感じています。仕事の性質上出張が多いため、最近特に感じたのは仕事と家庭とのバランスを取ることがとても大事です。これからは学校で培った知識と人間性を生かし、日中友好のために仕事頑張りたいと思います。

## SPECIAL REPORT

## ● マレーシアで面白いものは？ ●

マレーシアと聞かれて、最初に考えることは？

マレーシアを言えば、皆さんはマレーシアの首都クアラルンプール、またはツインタワーを考えているでしょう。ツインタワーは日本でいう、東京タワーです。しかし、マレーシアの特殊の点はランドマークといったアイコンではなく、そこに住み人々や文化などがマレーシア人という存在を作っていると私は考えます。

日本人を含む多くの人々はマレーシアの特殊な英語「マングリッシュ」を知っています。マングリッシュでは語尾として‘ラ (la)’がよく使われています。この言語の起源はマレーシアの人種、マレー人、中国系、インド系といった異文化社会からだと言われています。最初マレーシア半島に上陸したのはマレー人で、その後英国の植民地支配によって多くの中国人とインド人も上陸しました。こうして多様な文化や言語が使われたことによって、私たちの言語、特に英語に影響されたのです。また、シンガポールとマレーシアは元々一つの国であったため、現在でも二国は似た言語や文化を持っています。

多様な文化を持つ国の特典はより多い祝日を持っていることです。そのため、新年祝い、宗教的祝日やその文化による祭りも多くなるのです。マレーシア人は中国の新年、ハリラヤ（イ



ハリラヤ（イスラム教の新年）

スラム教の新年)、キリスト教の新年の3つの新年を祝っています。その他にも、ディーパワリ（光の祭典）、クリスマス、ウェサク（仏教の誕生日）等も祝っています。少なくとも、マレーシアでは月に一回は祝日があります。しかし、マレーシア人は食文化に誇りを持ってるといえます。もしマレーシアで体重増加しなかったらあなたはまだ足りていないでしょう。マレーシアでは、多くの食文化からきた料理を提供しています。例えば、中国からはラクサやクィツティアウ炒め、インドからはロツティチャナイ、ロツティティッシュ、そしてマ



クィツティアウ炒め

レーシアの現地からはナシカンダウがあります。こういった料理はどこでも食べることができる。また、24時間どの日でも食べることができるため、とても安く簡単に手に入れます。日本との大きな違いは、例え、午前2時で外食しようとしても日本では中々出来ないでしょう。と言っても、日本ではこのようなことはないと考えますが、マレーシアでは、どの時間帯でも彼らは食べるので、当たり前です。こうした原因がマレーシア人の食欲を抑えられないのでしょう。

マレーシアの料理では、果物も忘れてはいけません。マレーシアでは、世界有数のドリアンを生産しています。ドリアンは日本の食べ物でいうと納豆みたいな物です。この二つは食べれるか食べれないかで好みが変わってくると思います。例えば、匂い、食感や味などで判断するでしょう。ドリアンの他にも、マンゴスチン、ランブタンなどといった多くのトロピカルフルーツも生産しています。もし、食べるのが好きで、様々な食文化に触れたいのであれば、マレーシアが一番いい選択肢になるでしょう。



ドリアン

私の出身はマレーシアの中で最も人口密度の高いペナンという都市です。ペナン島はマレーシアで初めて植民地化された場所です。ペナン島にはユネスコ世界遺産に認定されている建物やお寺があります。その多くは大昔中国から移民されて来た一族のものであると言われています。例えば、中国から来た一族の家「clan house」があります。また、ペナンには退職された日本人がたくさんいます。なぜなのかは分かりませんが、ペナン島には独特な魅力があります。そんなマレーシアを一度訪れてみてはいかがでしょうか？



ペナンのユネスコ世界遺産



一族の家「clan house」

(担当：平成29年度電の子奨学生 筑波大学 タン インチャン)

## 編集後記

委員長 東京大学大学院 李雅頌

この度、第20号の編集委員長を担当させていただきました。元々本や活字が大好きでしたので、今回は貴重な体験をさせていただきました。3回行われた編集会議では、皆さんと楽しいディスカッションができました。そして編集会議後の食事では皆さんと日常生活や大学での出来事などを話し合ったりして、とても充実した時間を過ごすことができました。

編集委員の皆さん、ご指導くださったプロの方、そしてご協力くださった現役生やOB・OGの皆さま、誠にありがとうございました。

副委員長 東京工業大学大学院 朴胤植

今回会報誌の編集副委員長を務めました。最初の時には日本語がまだ下手で心配しましたが、常に優しい言葉で助けてくださったプロの方、物心両面で支援してくださった財団の加藤さん、積極的に協力してくれた編集委員の友達と一緒に最後までして雑誌を完成することができました。誠にありがとうございます。個人的には編集過程で色々な友達の意見を聞きながら日本語作文の勉強になった貴重な時間でした。今後も自分自身をさらに精進したいと思います。

委員 九州大学 文吉周

この度、「竜の子奨学生」第20号の編集員を務めさせていただきました。私は在学生とOB・OGの近況報告編集を担当いたしました。皆さんがご協力していただいて近況報告編集を無事にまとめることができました。全編集委員が集まった東京での会議では、各国の人々と意見を交換しながら会誌を完成させることは私にとってとても素晴らしい経験でした。委員の皆さんと楽しい交流が出来て良かったと思います。最後に編集会のアドバイザーとして協力していただいたプロの方及び東京会議の旅程を手配していただいた財団の加藤さんに感謝申し上げます。

委員 筑波大学 タン インチャン

私は日本語で論文やレポートなどを書く機会が少ないので少し心配していました。それでも皆さんのお陰で完成することが出来本当に感謝しています。この経験を通じて色々学ぶことができました。最後に、今回の会誌作成に参加させていただきありがとうございます。

委員 明治大学大学院 唐天利

この度、編集委員を務めさせていただき、本当に良い勉強と体験になりました。私は編集の経験がなく、日本語もあまり上手ではなく、最初は大変でした。しかし、編集委員の皆さんのおかげで無事に会報誌の編集を終えられました。編集委員の皆さんと一緒に書いた文章を添削して、本当に日本語の勉強になりました。また、会議後に皆さんとおいしいご飯を食べながら話すのが非常に楽しかったです。とても貴重な経験でした。

委員 北海道大学大学院 胡政飛

この度、会報誌編集を担当させていただき、とても良い経験になりました。私が新入生紹介と交流会レポートの部分を担当しました。最初は荷が重いなと感じましたが、皆さんが書いた5年後の自分という文章を読んで、夢を抱いて頑張っている皆さんから力をもらいました。BBQのレポートを書きながら、皆さんと過ごした楽しい時間は頭の中にはっきり思い出しました。

小学校以来、編集という活動とは無縁になっていましたが、今回の編集の縁で集まった編集員たちはもちろん、財団関係者と寄付者の方のご縁に感謝します。



第3回編集会議にて (OB・郭さん(中央)と)



第2回編集会議後にて



第1回編集会議後にて

「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている  
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため  
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林 (平成21年竜の子奨学生)

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に  
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている  
その夢はきっと世界を変えていく かならず